

現代 散楽

GENDAI SANGAKU

in 金沢泉鏡花フェスティバル2022

2022

10.21.金 18:30開演

10.22.土 13:00開演

金沢市民芸術村
パフォーミングスクエア

チケット

一般 3,500円 学生・高校生以下 1,500円 全席自由

ご購入・お問合せ

金沢市民芸術村事務局 受付窓口

TEL 076-265-8300 FAX 076-265-8301

ご予約(当日清算)

芸術村HP <https://www.geimura.com/music/resi-con19/>

主催 金沢市民芸術村アクションプラン実行委員会、金沢泉鏡花フェスティバル委員会

共催 金沢市、(公財)金沢芸術創造財団

協力 K-CUBIC、金沢舞台、LFI、(株)山口久乗

特別協力 北國新聞社

後援 石川テレビ、北陸放送、HAB北陸朝日放送、テレビ金沢、エフエム石川

企画・制作統括 金沢市民芸術村ミュージック工房

Kanazawa Citizen's Art Center
金沢市民芸術村

PIT4 ● ミュージック工房



太田 豊



大平 清



坂本 雅幸



森田 智博



林 恒宏



豊 剛秋

心躍る幻の芸能「散楽」と「泉鏡花」の幻想的世界

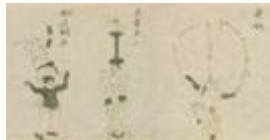
現代散楽とは

奈良時代、『散楽』（さんかく）という芸能が大陸から日本に渡りました。音楽・踊り・アクロバット・ジャグリング・

物まね・演劇・手品・人形劇など様々な芸能が合わさったもので、西暦752年の東大寺大仏開眼供養会において「散楽一舞」が奉納されるなど、大変盛んに行われていました。しかし平安時代初期に朝廷の庇護から外れ、曲芸・猿楽・傀儡子など細かなジャンルに分かれて民衆に広まっていく過程で、散楽という芸能と言葉は歴史から消えていきました。

この幻の芸能「散楽」を、当時の様子を描いた正倉院「彈弓散楽図」や「信西古楽図」から読み解き、そのエッセンスを現代に変換して生まれた『現代散楽』。古今東西の楽器が奏でる〈新たなシルクロード音楽〉、語り手の上質な声で味わう

〈泉鏡花の物語〉、そして〈超絶技巧のジャグリングパフォーマンス〉、これらが渾然一体となる新しい舞台『現代散楽』を是非お楽しみください。



散楽信西古楽図



遠の国の河北宣化張世古墓に描かれた散楽図

新シルクロード音楽 × 泉鏡花 × 超絶技巧ジャグリング

太田 豊 < 笛, SAX, おりん, 演出・指揮 > 雅楽演奏家

笛・琵琶・左舞を専門とし、国内外で雅楽を演奏。また一方で、サクセス・ギター・おりん・DAWなど様々な楽器を駆使して舞台音楽の創作を行う。「おりん」の楽器「久乗編鐘」を用いて北陸新幹線新「高岡駅」の発車メロディーを作曲するなど、その活動は多岐に渡る。東京芸術大学卒業、2020年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト。

大平 清 < サズ > トルコ音楽演奏家

中国へアゼルバイジャン・トルコ・ギリシャにて現地の撥弦楽器の演奏法と民謡を数多く学ぶ。東西シルクロードに伝わる吟遊詩人の伝統曲や各地の民謡を弾き語りやアンサンブルで演奏している。また朗読劇や演劇での作曲も行う。ユネスコムレ文化センター東京 音楽担当講師。



坂本 雅幸 < 和太鼓 > 和太鼓奏者

2006年「太鼓芸能集団 鼓童」の正式メンバーとなる。以来、鼓童の中心的存在の演奏者として舞台をリードし続ける。2017年独立。ソロ活動を開始し、ヨーロッパ、南米など世界各地で演奏。確かな技術とオリジナリティを併せ持つ太鼓奏者を目指し、様々な音楽家やアートとの共演を積極的に行っている。

森田 智博 < ジャグリング > ジャグリング・パフォーマー

高校時代にジャグリングをはじめ、卒業後は沢入国際サーカス学校に入学。在学中にジャグリングの全国大会(JJF)の個人部門で優勝する。以後、ダンスやマイムなどさまざまなパフォーマンスを学びながら独自のスタイルを確立し、国内外のフェスティバル、舞台、イベント、メディア等様々なシーンで活躍している。

林 恒宏 < 語り > 語り手・ナレーター

北陸を中心にテレビ・ラジオ番組、CM等のナレーションで活躍中。音声学講師の磯員靖洋氏(Vocal Arts Service Center代表)に師事し、「声とことばの磯員メソッド®」の正講師となる。上質な「語り」の道を究めるため、現在も研鑽に励む。石川県金沢市出身、株式会社「研声舎」代表、音声言語指導者。

豊 剛秋 < 笙・バイオリン > 雅楽演奏家 ※22日のみの出演

1000年来、代々雅楽の笙を家業とする京都府楽家、豊(ぶんの)家に生まれる。15歳より雅楽の道に入り、笙・琵琶・右舞・歌の他、ピアノ・バイオリンを修得。また古典演奏と並行して、笙の可能性を追求する活動にも意欲的に取り組んでいる。重要無形文化財(雅楽)保持者。



QUESTS

般若 佳子 < ヴィオラ >

広島県福山市出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業。フランクフルト音楽・舞台芸術大学を経てブリュッセル王立音楽院編入、同時にictus ensemble公演に参加しヴィオラ奏者として活動開始。現在は金沢を拠点にクラシック〜現代まで活発な演奏活動を行う。2004年度文化庁在外派遣研修員、2020年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト。



角口 圭都 < サックス >

富山県出身。クラシックサクソフォン奏者。ケイト・ミュージック代表。東京芸術大学・同大学院音楽研究科を卒業。第9回北陸新人登竜門コンサートにて優秀賞を受賞。第28回日本管打楽器コンクール第3位。第9回ルーマニア音楽コンクール第一位。南米のクラシック作品集「Chau Paris」(2019年T-toe records)、クラシック小品集「Romance」(2021年ケイト・ミュージック)発売中。ラジオプレゼンターや専門誌での執筆活動も行っている。2021年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト。



高雄飛 < ピアノ >

1995年金沢市生まれ、沖縄在住。映画「戦場のピアニスト」を観て、9歳からピアノを始める。ブルース・ブギウギからジャズに傾倒し、満口尚、田中裕士両氏に師事。ジャズを土台にラテン・ブラジリアン・歌謡など様々な音楽の要素を貪欲に取り込み、演奏スタイルは日々変化し続けている。また石川県アンテナショップでの映像音楽やCMへの楽曲提供も行っている。2019年度金沢市民芸術村レジデント・アーティスト。



泉鏡花「蓑合」

主といふは美しい女神にておはす
〜 蓑合の蜚には主ありて、みだりに人の狩るを許し給はず。

泉鏡花(本名 鏡太郎)は明治6年(1873年)現在の石川県金沢市に生まれました。尾崎紅葉に師事し、幼い頃に亡くした母への憧憬を基底に「夜行巡查」「義血侠血」「外科室」「高野聖」「婦系図」「歌行灯」など数々の傑作を生み出しました。「蓑谷」(みのだに)は、黄昏時に蜚を追って森の奥に迷い込んだ少年と美しい女神の邂逅を描いた幻想的な小品です。



公演チケットのご予約、ご購入、お問い合わせはこちらから



金沢市民芸術村へのアクセス

・金沢駅よりJR線高架に沿って徒歩10分
・北鉄バス「武蔵ヶ辻・近江町市場」発
「香林坊」経由「新金沢郵便局」行
「大豆田」バス停下車 徒歩5分
※本数が限られているため、予め確認の上ご利用ください。

Kanazawa Citizen's Art Center 金沢市民芸術村

〒920-0046 石川県金沢市大和町1-1
TEL:076-265-8300 FAX:076-265-8301

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染状況等により、予告なしに内容・会場・日程・時間・定員等が変更または中止となる場合があります。※ご来場される方は、37.5度以上の発熱や風邪、味覚障害等の症状があるなど体調が優れない場合のご参加はご遠慮いただき、マスクの着用、手洗い、手指の消毒、社会的距離の確保などをお願いします。※予防対策として、出演者、スタッフは、マスクを着用し、会場には消毒液を設置いたします。※「換気の悪い空間」「多数が密集する場所」「近距離での会話や発声が行われる場面」を避けた運営を行います。皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。